

【審査委員会特別賞】

団体名	阿蘇市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会
活動の内容（概要）	本団体は、キャリア教育の意義・目的を吟味し、産業界、教育界、労働界、行政が連携を図りながら、職場体験の円滑な支援システムを構築し、中学生の5日間の職場体験活動を中心に、子どもたちに望ましい勤労観・職業観を育むための取組を実施している。

受賞理由

- 地元キャリア・スタート・ウィーク実行委員会がキャリア教育の意義・目的を吟味し、職場体験を中心にそのプログラムを丁寧にコーディネートした取組である。
- コーディネート機関が行政、外部機関、学校、地域（事業所等）と連携を確実に図ることにより、骨太のキャリア教育が推進できる取組である。
- オーソドックスなプログラムで、協力する事業所の幅も広い。今日、挨拶やマナーの向上は、通常の公教育のなかでは十分に身に付かないくらいがあるので、その視点を持っていることを評価したい。
- 産業界・教育界・労働界・行政が連携を図りながら、子どもたちに望ましい勤労観・職業観を育むための取組を継続して実施し、連携事業種が年々拡大している取組である。
- 産学官が一体となって、地域でキャリア教育を推進することができている。グローバルな人材育成を進め、実際に地元就職者が出るなどの成果が上がっている。
- 被災地であることから、様々な苦勞を乗り越えながら取組を拡充していることも評価したい。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

阿蘇市内小中学校（小学校6校、中学校3校）、県立阿蘇中央高等学校、阿蘇市教育委員会（教育長、教育部長、課長、課長補佐、学務係長、学校教育指導主事）

【行政や地域・社会、産業界等】

熊本県商工観光労働部商工労働局労働雇用課ジョブカフェ阿蘇、ハローワーク阿蘇(阿蘇公共職業安定所)、阿蘇市PTA連絡協議会、阿蘇市商工会、阿蘇市観光協会

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成20年～ 【継続年数】9年

熊本県では、平成18年度から知事部局の労働雇用総室が中心となって、キャリア教育の推進を支援する事業が進められてきた。平成19年度には、「キャリア教育産・学・行政連携推進会議」が設置されるとともに、「熊本県『人財』育成プロジェクト」に基づいた具体的な事業が展開されている。

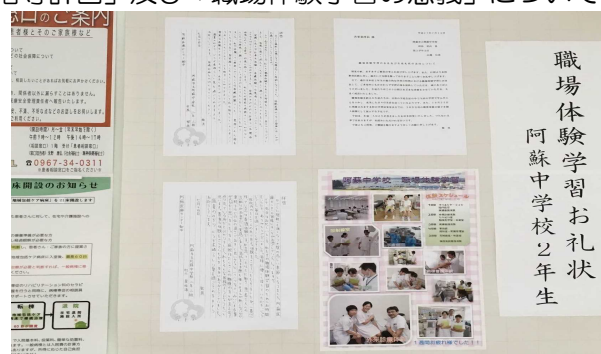
このような県全体の状況と、阿蘇市の中学生の課題として、働くことへの関心意欲、勤労観・職業観の未熟さ、コミュニケーション能力不足など、職業人としての資質能力の低下等が懸念されていた現状から、阿蘇市の職場体験の円滑な支援システムづくりの構築を図り、児童生徒の望ましい勤労観・職業観を育むために、平成20年度から阿蘇市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会を立ち上げ、活動を開始した。

「協力性」についての具体的な取組, 工夫している点など

- 1 阿蘇市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会設置要綱と年間2回の実行委員会
 - ・目的, 組織, 事業内容等を定め, 活動, 役割について共通理解を図る。
 - ・県労働雇用課ジョブカフェ阿蘇, 阿蘇中央高等学校がオブザーバーで入り, ハローワークとともに, 就職や事業所状況などの情報交換や成果と課題の検討内容などをキャリア教育に生かしている。
- 2 実行委員会の具体的活動内容
 - (1) 受入事業所の登録と開拓を行い, 職場体験学習のスムーズな実施を図る。
 - (2) 毎年, 成果や課題を検討し, 事業所に働きかけたり, 学校での指導に生かしている。
 - (3) 受入可の事業所が減少状況のとき, 事業所への感謝の気持ちを大事にするよう生徒に指導するなどの対策を図ることで事業所の協力が増えた。

「継続性」についての具体的な取組, 工夫している点など

- 1 交代のある実行委員や事業所へ目的及び趣旨を文書にて明記し, 依頼する。
- 2 学校と連携して「年間指導計画書」を作成するが, 学校が作成しているキャリア教育全体計画・年間指導計画と照らし合わせて, 実行委員会で「年間指導計画」及び「職場体験学習の意義」について確認するとともに検討する。
- 3 職場体験が終了したら, 事後学習で職場体験新聞等を書いて発表し合い, 感想を書いたお礼の手紙とともに新聞も事業所へ持参する。事業所ではその新聞や感想文を掲示している。
- 4 生徒と事業所のアンケートを集約し, 成果と課題を明確にして次年度へつなぐ。



<お礼の手紙>

「実践性」についての具体的な取組, 工夫している点など

- 1 実行委員会の活動内容について見直す。

「児童生徒の地域での態度や地域への就職状況について, 情報や意見交換をする」という項目を入れて, 学校外から見えている児童生徒のあいさつやマナー, 生徒の阿蘇市への就職状況等について情報交換し, 今後の指導に生かしている。
- 2 「阿蘇は観光地でもあり, あいさつやマナーを育成してほしい」という意見から, 学校や事業所へ改善点として指導を依頼した。

「ここ数年の職場体験学習でのあいさつやマナーの指導が, 学校や事業所で根づいてきて地域で褒められることが多くなった。観光地阿蘇としてはとてもありがたい。」という感想が観光協会長よりあった。
- 3 「阿蘇への誇りや自信をつけてほしい。それが職業への一番の力になる。」との観光協会, ハローワーク阿蘇, 県労働雇用課からの要望に対応している。

事前事後学習で阿蘇の文化遺産や阿蘇の特産物などの学習, 観光業の事業所などの取組から学ぶ職業講話など, 職場体験学習の幅を広げる工夫をしている(中学校)。



<図書館での職場体験の様子>

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

1 阿蘇市では「阿蘇市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会」の9年間の取組により、学校、地域事業所、保護者のキャリア教育への理解と協力が高まってきている。事業所自体が積極的に世界に誇る阿蘇の特産品の開拓やジオパーク、世界文化遺産の取組などに誇りをもって活動している状況であり、「阿蘇への誇りを持った児童生徒の育成」にも積極的に取り組んでもらっている。

2 具体的事例

(1) コミュニティ・スクールでの地域と連携した活動に積極的に取り組んでいる事業所や、「ようこそ先輩」「地域で頑張っている事業主の方に話を聞く」や日本で活躍中の実業家などによる職業講話など、グローバルな人材活用により、生徒の勤労観、職業への意識を高めている。

(2) 「5日間は長すぎる3日間にしてほしい」という学校や一部事業所からの要望の検討

学校現場の評価・感想・コメント

・阿蘇市に赴任する前は、学校が1軒1軒事業所を回って依頼に行っていた。大変な作業のわりには、成果も上がりにくかった。阿蘇市は実行委員会があり、生徒の職業選択も広がり、様々な立場から多くの協力を得て児童生徒の将来を見守ってもらっているので、阿蘇市でのキャリア教育は積極的にやりやすく、生徒の意欲も高い。

・職場体験学習をすることで、自分の特技長所、職業選択など考えてもいなかった生徒が、職業や働くことを自分のこととして考え、進路意識を高めることができた。また、中学2年生で職場体験学習をすることで、あいさつや掃除、マナーなどの大切さを学び、その後の生活態度に大きく影響し、充実した学校生活を送ることができるようになっている。

・事業所の実施後のアンケートに「大変忙しいときに指導は大変であるが、生徒が日に日に仕事を覚え、態度もしっかりしてくるのが楽しく、いつも楽しみにしている。」という感想をいただき、5日間の体験が大きな成果を上げていることを実感している。



<消防本部での職場体験の様子>

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

・この実行委員会に一番長く出席させてもらっているが、行政と学校、学校と事業所が大変上手くいき、生徒のあいさつやマナーがよくなってきている。事務局の苦勞が実っていると思う。今後もぜひこの取組を続け、阿蘇市の児童生徒の健全育成を図ってほしい。

・学校や事業所の指導がありがたい。これからも外へ出て阿蘇の自慢ができる生徒に育ててほしい。

・高校生のインターンシップのアンケートに、「自分のコミュニケーション能力不足を感じる」「学校の勉強をもっとしておけばよかった」などあり、実行委員会で生徒の姿を共有し、実践に生かしてほしい。

・この実行委員会の取組には、学校と地域の一体感を感じた。阿蘇の産業の理解を深め、将来阿蘇を活性化する人材を育成してほしい。そのために、事後学習の発表会等に事業所を招待したり、広報を行ったりして、地域をさらに活性化させてほしい。